

当時の思い出

河合 康希 (平成 23 年度卒業生)

今後の人生で経験することのないであろうこと。台風の中、和歌山県へ修学旅行。そんな状況でマコリレー。卒業した今でも、台風になると、ふと、修学旅行を思い出す。当時、仲間たちと「台風だ」と笑い合いながら、ちょっと不安になりながら、旅路についた、とても柔らかい記憶。台風という憂鬱な気分を和らげてくれる大切な思い出である。

那加中で過ごした3年間で、今、振り返ると、華やかな思い出や苦い思い出が溢れるように出てくる。部活では恩師に会い、初めてやる剣道に魅せられた。「情熱」という感情を初めて経験した。学校生活では、体育祭で、仲間たちと大縄跳びやムカデリレーの練習に必死で取り組み、涙を流したこともあった。

那加中で、あんなに輝かしくて、熱くて、密度の高い時間を過ごせたことは、確実にわたしの一部となり生きている。今後の長い人生で、困難があったときも、この那加中での思い出とともに乗り越えていきたい。

恩師のたより

創立 70 周年に寄せて

馬淵 孝一 (平成 23 年度 3 年学年主任)

平成 21 年度の入学生は、202 人で卒業生は 209 人でした。どの子も個性的で生き生きと 3 年間で過ごしました。

そんな 3 年間の中学校生活の中で最も印象に残っていることは、学年合唱です。2 年生のときの「緑」。その迫力に圧倒されました。そのハーモニーに心打たれました。多くの先生や、地域の方々にも絶賛されました。3 年生を凌駕するほどでありました。勿論 3 年生のときの合唱も素晴らしかったです。

また、修学旅行の行き先が、急遽白石島から串本に変更になりました。1 日目の夜の学級での出し物が大変工夫され楽しい会でした。2 日目の昼からの体験を決めるためのじゃんけん大会も、学級担任を巻き込んで大いに盛り上がり、黙々と取り組めたことに 3 年間の成長を感じました。

そんな皆さんと平成 29 年 1 月の成人式にて元気な顔を見られたことが感慨を深くしています。最後に、卒業式の 3 日後に、東北大地震が起きました。



当時の思い出

廣瀬 陽一郎 (平成 24 年度卒業生)

私が生徒会長を務めていた頃は、故中村校長先生と飯島学年主任が勤務していらっしゃいました。今回は私と 2 人の先生方との思い出を記そうと思います。

中村先生は生徒と一緒に給食を食べたり、卒業生に対して各々に直筆の言葉を送って下さる等、非常に生徒想いの優しい方でした。そんな中村先生に当時 14 歳の私は「烏合の衆」という言葉を教えていただきました。「ただ集まっているだけで何もしない人は要らないだろう？」烏合の衆の一員だった私はその日を境に、周りの人間が何かしている際は自分も何か働きかけようと行動しました。生徒会長として全校生徒を統率していく上でもこの言葉は大いに役立ち、成人となった今でも生かされています。

飯島先生は非常に威厳のある体育の先生でした。どんな不良生徒も飯島先生には逆らえない、そんな方でした。ある会議で生徒代表の挨拶を誰が行うかで揉めていた際に飯島先生が「話すのは廣瀬がやれ。早く次へ進め。」と言われました。私は「また原稿作りかぁ。」と落胆する一方、「これって認められたのか！」と心躍ったのを覚えています。それからは話す力に自信が付き、ディベート大会に参加したり、行事におけるスピーチを進んで担当しました。先生の何気ない言葉は私の誇りとなり、今も生きています。

他にも思い出尽くしの那加中生活でしたがお二人に出会えたことは最高の思い出です。

恩師のたより

煌～きらめき～

河合 美佳子 (平成 24 年度 3 年 1 組担任)

これは、修学旅行のスローガンです。1 週間延期したため、6 時間以上のバスの旅となりましたが、和歌山の海岸で雨の中はしゃいだ学級レク。修学旅行用 T シャツを着て踊った那加ダンス。体育館で、全校道徳やディベート大会も行いました。リンカーンは「人間の顔は人生で 7 回変わる」と言いました。あなたは今、何回目の変化を迎えましたか？

よく 2 年次の主任が「いつまで去年のことを引きずるんだ？」と、3 年次の主任は「自立と自律」ができる 1 年にと言っていました。いろいろな経験を経て、今よりもっと高みを目指して頑張りたいと、職員谁也願っていました。卒業して 5 年。きっと今のあなたはあの頃以上に「美しく輝いている」ことでしょう。人生は一度きりです。これからも後悔しないよう「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」魂で煌き続けてください。

